

2010 年度春学期 チューター業務を振り返って

所 属	社会学部	社会	学科
担当科目	社会学概論		

<春学期を振り返ってのまとめ 仕事内容・気づいたこと・感想 など>

この授業の業務は春学期を通して一人 4 枚出すレポートを回収し、名簿につけ、コメントを書いて先生に渡すという業務だった。この業務を始めたころはレポートの提出も緩やかで無理することのないレポートの量だった。しかし、授業が終わるにつれて量が膨大に増していき、宿題に持って帰っても終わらないようになってきた。最後のほうになると 4 枚一気に出す人や、4 枚以上出す人がいたからだ。この授業のチューターは 5 人いたにもかかわらず、やはり後半になると私たちもテストや期末レポートの存在が支障をきたすので、キャパシティを超えていた。以上が業務内容に対する振り返りであるが、次にレポートの内容について触れたいと思う。

提出されたレポートの書式はばらばらでスタイルガイドに基づいてないものが多かった。また 2 回生以上でも本文の字の大きさが 10.5 よりも極端に大きかったり、小さかったりしていた。ひどいものはルーズリーフに手書きのものもあり、非常に読みづらかった。おもな構成は授業の要約+それに対する感想・考察であるが、どちらか一方しか書いていないものや両方あったとしても一方の内容が不十分なものが多々あった。授業の要約も DUE T にアップされた授業内容のプリントをただ写しているだけというものもあった。

この業務をはじめてこれらのことが気付けるようになったというのが大きな成長になったとおもう。また、始めた当初は私が一回生のころに配布されたスタイルガイドを片手にレポートの形式をチェックしていた。他人のレポートを読むことは人の考え方や、論の進め方を学べ、とてもいい勉強になった。私自身、レポートを書くスキルというのが一段階あがったと思っている。また 4 回生と一緒に業務ができたのもよい経験となった。業務の合間に授業や就職活動の話を書けてストレスなく業務を進めることができた。この業務はチームワークが大切になるので、とてもよい環境であったと思う。

<今後のチューターまたは先生への提案>

この授業でこのスタイルを維持するのならば、提出期限を 4 つに区分して段階的に出させるのが必要だと思います。やはり、後半に集中してくると私たちにも期末があり、コメントの内容が簡素なものになるからです。また字数や形式をしっかり決めることも大切だと思います。手書きのレポートや字が小さすぎるレポートはとても読みづらかったです。

2010 年度春学期 チューター業務を振り返って

所 属	社会学部	社会学部	社会学科
担当科目	社会学概論		

<春学期を振り返ってのまとめ 仕事内容・気づいたこと・感想 など>

今回の講義の形態として、前期内に1人につき4回、講義に関するレポートの提出が平常点として加算されるもので、そのレポートのチェックを主な業務として行っていた。初めの頃は、初めての仕事に戸惑いながら手探りで一枚一枚読むではチェックを行っていたが、枚数を重ねていくうちにレポートの内容の違いに気付くようになっていた。とりあえず仕上げられたレポート、どこから取ってきた様なレポート、講義をしっかりと聴き、自分なりの意見を沿えてしっかりとまとめられたレポートなど、レポートを読んでいるうちにどんな気持ちでこのレポートを書いているのだろう、と考えながら読むようになっていた。またそれと同時に、自分がこれまで提出したレポートはどう思われていたのだろう、とも考える機会が増えた。

また、レポートのチェックを最初は講義中の教室内で行っていたため、学生の講義に対する参加意欲や授業態度などを少し見渡してみたりとする機会もあったが、見渡す前にまず気になったのが、話し声であった。とてもじゃないが講義中とは思えない空気が教室内に流れていた。先生も何度か注意をしていたが、数分後にはまた騒がしくなり、あまり効果があるようには見えなかった。毎回、出席確認を行う授業ではないため、講義を聴く気がないのであれば、無理して出席をする必要はない、と先生も仰っていたにも関わらず講義中の教室を喋り場か何かと勘違いしている様な生徒が多く見受けられ、どうしようもない自分が少し歯痒かった。

今回のチューター業務を通して、学生が作成したレポートを数多く読んだり、講義を生徒側とはまた少し違った立場で見ることができたりと、普段の大学生活の中ではなかなか経験できないことを多く経験でき、自分にとって非常にいい体験になった。また、これらの経験が自分自身の大学生活を見直し考え直す機会にもなり良い刺激を与えてくれた様に思う。

<今後のチューターまたは先生への提案>

どうしても講義の後半、特に最後の3回程からレポートがまとめて提出されるものが増えてしまっていたため、提出期間を前半後半で分けるなど工夫があってもいいのでは、と少し感じました。

また、講義中ですが、内容的に難しいところではあります。なにか学生が主体となって参加できるような工夫があればもう少し学生を授業に引き込めるのでは、とも感じました。具体案はまだないですが・・・。

2010 年度春学期 チューター業務を振り返って

所 属	社会学部	社会	学科
担当科目	ファーストイヤーセミナー・社会学概論		

<春学期を振り返ってのまとめ 仕事内容・気づいたこと・感想 など>

ファーストイヤーセミナーの授業では、主に生徒のサポート役を担当させていただきました。主な業務は、生徒からの質問への対応、マニュアルの作成などです。このクラスの授業内容は主にレポートの作成方法についてで、先生が基本から丁寧に教えて下さいました。恥ずかしいことに私も知らない内容が多々あり、生徒とともに学ぶことも多かったです。

ファーストイヤーセミナーの授業は、少人数ということもあり生徒との距離がとても近く、最後には気軽に話せる仲になっていたように思います。個人的に「ここがわからないのですが、アドバイスを下さい」といったメールが来るなど、生徒たちから頼られていると感じた時はそれがとても嬉しく、モチベーションになりました。

社会学概論の授業では、主に提出されたレポートへのコメント作成の業務をさせていただきました。授業内容はその名の通り「社会学概論」。社会学とはなにか、社会学における基本的な考え方を学びました。

他人のレポートを読んでコメントを作成するといった作業は経験したことがなかったので、始めは戸惑いましたが、何度もこなしていくうちに徐々に慣れていきました。この作業を通して学ぶことも多くありました。たとえばレポートに注意すべき点があった場合には、「自分がレポートを書くときにこのようなミスはなかっただろうか」と考え、レポートから得るものがあったとき「ここは参考にしよう」と考えました。こうして自分を見直し、知識を吸収していくことができました。提出されるレポートに関しては、授業が進むにつれ、より質の高いレポートが提出されるようになってきたように感じます。

チューターの仕事を始めた当初は、なにをすればよいかもわからず戸惑うこともありましたが、最後には自分から能動的に動くことができるようになっていました。また、チューターの経験を通して得たものも多く、機会があれば是非またやってみたいと思っています。

短い間でしたが、お世話になりました。ありがとうございました。

<今後のチューターまたは先生への提案>

社会学概論の授業では、講義期間中に4回のレポートを提出するという課題が生徒に課されましたが、最後の授業で4回のレポートを同時に提出する生徒も多く、授業が終わりに近づくにつれ、チューターの負担が大きくなっていました。なので、チューターにコメントの作成を任せるとは、レポートの提出期限を2度に分けて設けるなど（たとえばいつまでに2回の提出、いつまでに次の2回を提出するといったように）の工夫をしていただければ、チューターの負担は軽減すると思います。そうすればレポートに添付するコメントの質もより良いものになると思います。